

神によるスンナの保持 (3/7) : イスナドの重要性とその 史

:

明:

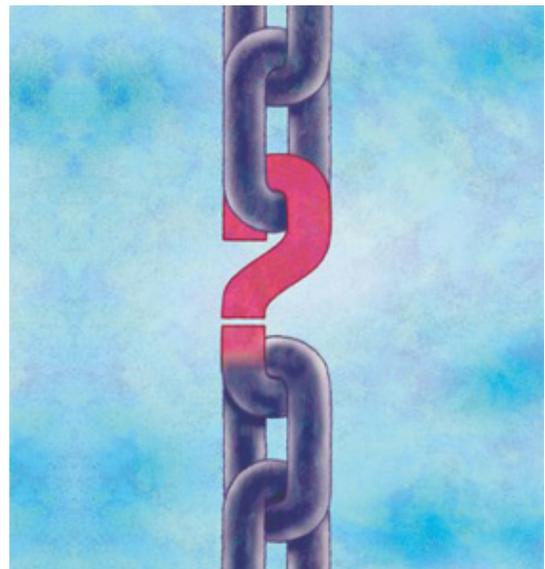
以下では、言者ムハンマドの教えすなわちスンナが史を通していかに改や修正から守られ、その信性を保ち けたのかについて 考します。第3部: 最初期におけるイスナドの重要性とその 史について。

目: [事言者ムハンマド彼の言 にして](#)

より: ジャマ ルッディ ン ザラボゾ (2011 IslamReligion.com)

日 20 Jun 2011

集日 20 Jun 2011



ハディ スの保持におけるもう一つの重要な方法とは、ムスリム共同体において したイスナド体系です。イスナド体系とは、 承者の 路を 言者 (神の慈悲と祝福あれ) にまで 辿らせつつ、情 源に言及することです。

イスナドの重要性は、アブドッラ ブン アル=ムバ ラクによってよく表 されています: “イスナドは宗教の一部である。イスナドがなければ、 でも思いのままに主 することが出来るからだ。” [1](#)

イスナドは、ハディースが真正であるか、根の弱いものであるかを分け、捏造されたハディースの可能性を可能とする重要なものです。在においても、ハディースの源泉すら提供せずにハディースを引用することは大それた行です。イブンアル＝ムバラクは言います：“かにどこからそのハディースをいたのかねれば、彼はよりこむだろう。”

イスナドは一の保、または信性の保という役割を担っているのです。初期のハディース学者らは、イスナドのないハディースをハディースとして考すらしませんでした。

イスナドの重要性について、スフヤン アッ＝サウリ（H.161年没）はこう言っています：“イスナドは信仰者のである。なくして、彼は何とうというのか。”

イスナドを使用することによって、ムスリム学者らは一部の人がイスラームに持ちもつとみた宗教的革新を根やしにする（またはう）ことが出来るのです。ムハンマドブン スィリン（H.110年没）、アナスブン スィリン、アッ＝ダッハク、ウクバブン ナフィウらは皆、次のように言ったと告されています：“この知（ハディース）は宗教そのものであるため、あなたの宗教をから根としているのかを [しなさい](#)。”

スンナはイスラームの根本的要素を成しているため、特定の人物からのハディースを使用することは、その人物から自らの宗教を使用していることに似ています。したがって、私たちはその言を言者にまで、信のおける人物からのみ宗教を使用するよう用心すべきです。そしてそれは、イスナドを用いることによるのみ可能なのです。

この制度は、今日の刊行物や著作システムよりも安全な保手段でした。ハミドゥラはこう述べています：

“

近代学者らは、学的研究において重要な主の典を引用する。しかし、それが最も慎重な研究文であっても二つの欠点がある：

(a) 出版された本の合、そこにある植やその他のいをさせる方法は全くと言っていいほどありません。しかし、著者から直接いたのであったり、または著者から定された抄本を受け取ったのであったり、または古い本だったりすれば、著者からいた人物か、著者によって定された者になりたりするのであれば、そ

ういったことはないはずなのです。

(b) 昨今では、典 の元になる典 を するということがなされず、眼前にある典 のみで人々は 足し、その出来事の直接の目 者にまで を辿ろうとしません。ハディ ス研究においては、ケ スは全く なりませ 3

として、イスナ ドはすべてのハディ スにおける重要な 成要素であり、それなしでは も承の信 性を することが出来ないものであると言うことが出来ます。イスナ ドがなければ でも自分の好きなように主 することができ、それは宗教の一部であるとも言ったア ブドッラ ブン アル＝ムバ ラクは、 かな真 を述べているの⁴です。

にイスナ ドの重要性は非常に明快であり、その重要性を疑った人々は 去にも非常に稀 だったのです。それゆえ重要な はイスナ ドがいつ から用いられ出したのかという いであり、それがもし 言者逝去 のずっと からだったのであれば、それは使い物にならない でしょう。

ウマル フラ タは彼の博士号の 文で、イスナ ドの 史について非常に しく じています。ここでは字数の制限からその について述べることは出来ませんが、以下の重要な が き出 されています：

ハディ スの 承においてイスナ ドが最初に使用された 期に して、彼はこう言っています：教友たちはイスナ ドを元々使用していましたが、通常は彼らと 言者との にはいかなる仲介者もいなかったため、彼らがイスナ ドを用いて えていたことは明 にはなっていませんでした。ただ教友たちは 言者から直接ハディ スを いたか、または 言者から直接 は かなかったか、ということを明 にしたのです。フラ タは、教友たちによる 倒的多数のハディ スは、彼らが 言者から直接 いたものであると述べています。それゆえ、イスナ ドは最初に教友たちの 代に用いられ始めたものの、 著なものではなかった、と言うことが出来そうです。

Footnotes:

1

イマムムスリムによって、著サヒフの序「イスナドが宗教の一部であることの解」とされた章において引用された。

2

引用元: Umar ibn Hasan Uthmaan al-Fullaatah, *al-Widha fi al-Hadeeth* (Damascus: Maktabah al-Ghazzaali, 1981), volume 2, p. 10.

3

Muhammad Hamidullah, *Sahifah Hammam ibn Munabbih* (Paris: Centre Culturel Islamique, 1979), p. 83.

4

ここでは、パウロと多くのキリスト教宗派の起源の について思い起こされます。パウロはもちろん、イエス（彼に平れ）とは会ったこともありませんでした。彼はその教えをイエスに することができなかったのであり、事、彼はイエス 当の教えを知っていた弟子たちの反 を受けたのです。残念ながら、 史的信 性の 立と、教えを いた当人であるイエス 辿るという はキリスト教では形成されませんでした。それゆえ、彼らの宗教は非常に歪曲され、イエス元来の教えか れ去ってしまったのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/590>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。